

公益社団法人 日本補綴歯科学会 2023-2024 年度委員会活動報告

I.	はじめに	(理事長：窪木 拓男)
II.	学術委員会	(委員長：澤瀬 隆)
III.	JPR 編集委員会	(委員長：江草 宏)
IV.	編集委員会	(委員長：池邊 一典)
V.	財務委員会	(委員長：西村 正宏)
VI.	広報委員会	(委員長：上田 貴之)
VII.	医療問題検討委員会	(委員長：會田 英紀)
VIII.	診療ガイドライン委員会	(委員長：松香 芳三)
IX.	教育問題検討委員会	(委員長：築山 能大)
X.	修練医・認定医・専門医制度委員会	(委員長：鮎川 保則)
XI.	修練医・認定医・専門医認定委員会	(委員長：小峰 太)
XII.	社会連携委員会	(委員長：新谷 明一)
XIII.	国際渉外委員会	(委員長：猪越 正直)
XIV.	学会連携委員会	(委員長：近藤 尚知)
XV.	規程検討委員会	(委員長：武部 純)
XVI.	用語検討委員会	(委員長：小林 琢也)
XVII.	研究企画推進委員会	(委員長：笛木 賢治)
XVIII.	特命委員会 I (データベース担当)	(委員長：前川 賢治)
XIX.	特命委員会 II (若手育成担当)	(委員長：小川 匠)
XX.	倫理審査委員会	(委員長：疋田 一洋)
XXI.	利益相反委員会	(委員長：岡本 和彦)

I. はじめに

第 40 代日本補綴歯科学会 理事長 窪木拓男

日本歯科専門医機構、日本補綴歯科学会と日本顎咬合学会が共同で構築した「補綴歯科専門医」制度が、令和 5 年 10 月 12 日から新たに広告可能となった。歯科領域では、「小児歯科」「歯科放射線」などに続いて 6 番目である。ただ、新規専門医制度が主流となった今、すべての既存の歯科 5 領域も補綴歯科専門医を手本に大きく変更を余儀なくされていることを考えると、補綴歯科専門医はこの業界の先駆者であるとも言えるかもしれない。

さて、今期は、松尾芭蕉の「不易流行」を合い言葉に多くの事業を並行し進めてきた。すなわち、その根幹となり変えがたい基盤的な事業に加えて、時代に合わせて柔軟に変化させる必要がある萌芽的な事業をよ

り良く組合せて、相補的に刺激し合いながら事業を推進してきた。例えば、学会の司令塔である副理事長や総務担当理事の下、学術委員会や JPR 編集委員会、邦文編集委員会、財務委員会、修練医・認定医・専門医制度・認定委員会、規程検討委員会、用語検討委員会、倫理審査委員会、利益相反委員会はどちらかというと基盤的な要素をより多く持ち、学会の名誉や誇りを保つための学会の背骨のようなものである。したがって、これらがへこむと公的に大きな問題が生じる。一方、この期においては、補綴歯科専門医制度を確実に実施していくとともに、補綴（ほてつ）歯科という名称を国民に広めていくことが大きなミッションであった。その意味で広報委員会、社会連携委員会の役割は大きかった。学会が成長するためには、学術研究や医療技術開発は根本的なドライビングフォースとなるため、医療問題検討委員会、診療ガイドライン委員会、研究企画推進委員会は学会のある意味萌芽的な要素を担うことになった。また、今期はコロナ禍が収まった

こともあり、学会交流や国際交流が盛んになった。これを支えた学会連携委員会や渉外委員会は大変な重責を担っていただいた。特に、今期は重要な任務が多くあったため、特命委員会を二つに増やし、一つはデータベース構築に集中していただき、もう一つはPM NexGen の開催や登録衛生士制度の構築等の若手育成担当として、負担を軽減しながら、大きなミッションを完遂していただくことに成功した。

今期、このように多様な委員会活動を進めていただいた多くの先生方に理事長として心から御礼を申し上げたい。各位の努力と志の連続性の先に、日本補綴歯科学会の未来があると確信しているからである。

II. 学術委員会活動報告

1. 委員会構成

委員長：澤瀬 隆

副委員長：山下秀一郎

委員：秋山謙太郎，秋葉陽介，梅原一浩，
荻野洋一郎，佐藤洋平，中島純子，
山田将博，和田誠大，正木千尋

幹事：黒嶋伸一郎

2. 活動状況

学術委員会を5回，プログラム委員会を3回，第6回 JPS student clinical skills competition (JPS SCSC) 審査会を1回，プロソ'24 プログラム委員会を2回開催し，以下の活動を行った。

1) 社団法人日本補綴歯科学会第133回学術大会企画準備

- (1) 会期：令和6年7月5日（金）～7月7日（日）
- (2) 会場：ハイブリッド開催（幕張メッセ国際会議場＋ライブ配信）
- (3) 主管校：日本大学松戸歯学部
- (4) 大会長：河相安彦，準備委員長：大久保昌和
- (5) 総演題数（課題口演：9演題，一般演題：33演題，ポスター：153演題）
- (6) 学術企画

メインテーマ：補綴の未来、歯科の未来。「不易流行（変わらないもの、変えていくもの）」

- a. 特別講演（共通研修②）「人生の終い方～最終ステージの伴走者としての在り方～」
- b. 海外特別講演「オーラルヘルス研究における異分野融合型研究から実装へ」
- c. メインシンポジウム「日本臨床栄養代謝学会 合同シンポジウム 補綴歯科治療と栄養治療の新たな

連携戦略」

d. シンポジウム

- 1：「口腔機能と栄養摂取からみた補綴歯科治療の意義」
- 2：「クラウンブリッジにおける補綴材料を再考する～金属・陶材・ジルコニアは臨床でどのような影響を与えるか？～」
- 3：「セラミック修復最前線」
- 4：「英語論文の執筆・査読，国際学会発表の勘どころ」
- 5：「咀嚼・咬合によるメカノバイオロジー：咀嚼・咬合力は体にどんな変化をもたらすか？」
- 6：「生体模倣のその先へ～補綴とバイオミメティクス～」

e. 修練医・認定医・専門医制度委員会セミナー（共通研修①）「安全な補綴歯科診療の実現に必要な有病高齢者のリスクマネジメント」

f. 臨床スキルアップセミナー1「補綴歯科専門医のために」

g. 臨床スキルアップセミナー2「補綴歯科専門医のために」

h. 臨床リレーセッション

- 1：「CAD/CAM 技術の台頭で部分床義歯製作はどのように変わったのか？」
- 2：「歯根破折からの歯の再植・移植，その診断と治療方針」
- 3：「インフォームドコンセントに活用できる臨床エビデンス」
- 4：「フィニッシュラインからみる歯冠修復」

i. 症例報告コンペティション「歯科医師と歯科技工士の連携による審美補綴への挑戦」

j. 歯科技工士セッション「補綴歯科治療に対するデジタル技術活用の現在地」

k. 専門医研修会「下顎位を再考するー補綴・歯周・矯正の観点からー」

l. ハンズオンセミナー

- 1：「磁性アタッチメントを習得する～技工操作から取り付けまで～」
- 2：「口腔内スキャナーの実践 Ver.6（固定性補綴 & 可撤性補綴）」
- 3：「安全・安心のインプラント手術～ガイドサージェリーの体感～」
- 4：「修復治療を成功に導くマイクロスコープの有用性」
- 5：「包括的補綴歯科治療に必要なペリオドンタルプラスチックサージェリー」

- m. 臨床研究セミナー「ビッグデータ・リアルワールドデータを活用した研究を知る」
- n. 教育問題検討委員会セミナー「CAD/CAM 冠の卒前教育」
- o. 診療ガイドライン委員会セミナー「接着ブリッジの診療ガイドライン追補版について」
- p. イブニングセッション
 - 1:「前歯部審美歯科治療の治療オプション～デザインおよびマテリアルの選択」
 - 2:「バイオロジーの cutting edge —網羅的解析の現状と未来—」
 - 3:「綴歯科医が考える Post コロナ時代のフレイル予防戦略—栄養, 精神心理, 社会的要因から—」
 - 4:「ここを伝えて欲しい! 部分床義歯製作における歯科技工士への情報共有の勘所」
 - 5:「解剖学的視点から上気道 (エアウェイ) を考える—内視鏡検査・嚥下造影検査・肉眼解剖—」
- q. ランチョンセミナー
 - 1:「超高齢社会における義歯安定剤の新たな役割」
 - 2:「ナビゲーションシステム「X-ガイド」と仮想マーカー法について」
 - 3:「ブラキシズムを診る」
 - 4:「IOS 時代に即したモノリシックレストレーション」
 - 5:「Tosoh dental zirconia powder」
 - 6:「Tissue Level Implant のすすめ」
 - 7:「L8020 乳酸菌とプロバイオティクス・ポストバイオティクス」
 - 8:「インビザライン Go システム」って本当に治るの? ～補綴専門医による活用法～」
 - 9:「ショートファイバー補強型コンポジットレジンによるバイオミメティックコンセプト」
 - 10:「Impact of S-PRG filler-containing dental materials」
- r. 市民フォーラム 2023
「お口のケア, 入れ歯のケア正しいやり方ご存知ですか? 健康につながる正しいやり方」
- s. 他学会との共催, 後援
 - 1) 共催: (一社) 日本栄養治療学会, (公社) 日本歯科衛生士会, (一社) 日本老年歯科学会, (特非) 日本顎咬合学会, (公社) 日本口腔インプラント学会, (一社) 日本接着歯学会, 日本臨床歯科学会, (特非) 日本歯周病学会, (一社) 日本歯科技工学会, (一社) 日本デジタル歯科学会, (公社) 日本矯正歯科学会

- 2) 後援: (特非) 日本顎咬合学会, (一社) 日本接着歯学会, (公社) 日本口腔インプラント学会, (一社) 日本歯科技工学会, (公社) 日本歯科衛生士会, (一社) 日本デジタル歯科学会, (一社) 日本老年歯科学会, (特非) 日本歯周病学会, (公社) 日本矯正歯科学会, (公社) 日本歯科医師会, 日本歯科医学会, (一社) 日本歯学系学会協議会, (一社) 日本歯科医学会連合, (一社) 千葉県歯科医師会, (一社) 千葉市歯科医師会, (一社) 埼玉県歯科医師会, (公社) 松戸歯科医師会, (公社) 茨城県歯科医師会, (公社) 東京都歯科医師会
 - t. 課題口演賞 / 課題口演優秀賞ならびに優秀ポスター賞審査員の選考
 - u. 前付原稿作成
- 2) 歯学部学生技能コンペティション「第 6 回 JPS student clinical skills competition (SCSC)」の企画 (教育問題検討委員会と連携)
- (1) 会期: 令和 6 年 6 月 2 日
 - (2) 会場: モリタ Dental Plaza Tokyo
 - (3) 所掌委員会: 学術委員会, 教育問題検討委員会
 - (4) 審査員: 澤瀬 隆 (長崎大), 黒嶋伸一郎 (北海道大), 佐藤洋平 (鶴見大), 築山能大 (九州大), 大久保昌和 (日大松戸), 曾根峰世 (明海大)
 - (5) 優秀賞 / 最優秀賞の選定
- 3) プロソ '24 企画・演者の選定
- (1) 会期: 令和 6 年 10 月 12 日, 13 日
 - (2) 会場: Junko Fukutake Hall (岡山大学鹿田キャンパス内)
 - (3) メインテーマ「補綴治療の質を向上させるための周辺必須技術を学ぶ」
 - (4) 主管校: 岡山大学
 - (5) 大会長: 窪木拓男
 - (6) 所掌委員会: 学術委員会, 修練医・認定医・専門医制度委員会
- 4) プロジェクト研究
- ・公募用テーマの作成
「国民への「口腔の健康」の意義の啓発を目指して」
「AGI がもたらす歯科医学のデジタルオプティマイゼーション」

III. JPR 編集委員会

1. 委員会構成

委員長：江草 宏

副委員長：峯 篤史

委員：加来 賢，金澤 学，高阪貴之，新谷明一，
鈴木善貴，高岡亮太，田坂彰規，
多田紗弥夏，長谷川陽子，笛木賢治，
正木千尋，松本真理子，山口 哲，
山田将博，竜 正大，和田淳一郎

幹事：新部邦透

2. 活動状況

1) 会議開催状況

令和5年度

- ・第1回：2023年7月3日（月）
19：30～21：30（オンライン会議）
- ・第2回：2023年9月25日（月）
19：00～21：00（オンライン会議）
- ・第3回：2023年12月13日（水）
19：00～21：00（オンライン会議）
- ・第4回：2024年3月8日（金）
17：00～18：40（ハイブリッド開催）

令和6年度

- ・第1回：2024年6月10日（月）
18：00～19：30（オンライン会議）

2) 運営・出版体制の強化

- ・執行部メンバー（Editor-in-Chief 江草，Sub Editor-in-Chief 峯，Senior Scientific Editor 加来）を中心とするガバナンス機能の強化
⇒迅速な意思決定および編集業務処理の効率化
- ・迅速な早期公開・出版フローの確立
⇒採択後，約1か月の早期公開を実現。
⇒遅延無く，67巻3号（7月号），4号（11月号），68巻1号（1月号），2号（4月号）を発刊。
- ・Editorial Board の強化（ICP, IADR で活躍する欧州の主要教授3名招聘）
- ・科学技術振興機構（JST）への働きかけにより，J-Stage 早期公開時における Web of Science 収載を実現。

3) 信頼ある査読・編集体制の確立

- ・迅速かつ質の高い査読システムの構築（2023年投稿数：327論文）
⇒ Editor-in-Chief（江草）【最終判定】
⇒ Sub Editor-in-Chief（峯）【最終前判定】

⇒ Senior Scientific Editor（加来）+Associate Editor（16名）【一次判定】

⇒ Reviewers【査読】（一つの論文に2～4名の査読者）

⇒査読支援：Editorial Board（40名），Statistic Editor（2名）

⇒事務局支援：Editorial Assistants（石川，川口）

⇒迅速な判定

・初回判定までの平均日数：23日

・遅延による取下げ：0件

・採択率：21.9%

⇒採択前に専門業者による英語校正を定型化⇒信頼される論文体裁

4) チーム担当制のインパクト向上・プロモーション活動

- ・執行部：江草，峯，加来，新部
⇒科研費（研究成果公開促進費 国際情報発信強化）の対応【下記5）に詳細】
⇒他誌連携：2023年8月16日にタイ・チュラロンコン大学フォーラムにて，論文執筆ノウハウについて J Prosthodont Res（江草），Int Dent J および Oral Dis 編集長が講演。講演を介して JPR をプロモーション。
⇒2024 CPS-JPS-KAP（2024年3月5日・広州）のシンポジウムにて，江草委員長が論文執筆ノウハウについて講演し，JPR をプロモーション。
- ・総説企画チーム：加来，金澤，長谷川，和田
⇒依頼総説論文の企画・依頼
⇒Editorial の企画（68巻2号：Guest Editorial, Prof. Barry J. Sessle）
⇒国際学会連携（67巻3号：IADR Prosthodont Group 関連 News 掲載）
⇒各号の冊子カバー写真，ハイライト論文選定
- ・戦略チーム：正木，山口，田坂
⇒査読者の顕彰（67巻4号に査読者リストおよび謝辞掲載）
⇒投稿規定，投稿時チェックリスト改定
- ・分析チーム：笛木，山田
⇒IF の傾向分析と対応
⇒論文被引用・ダウンロードデータの分析と対応
⇒JPR Best Paper Award 分析・候補選定
2024年受賞論文
- ・Review Article 部門：Ramadhan Hardani Putra et al.
The accuracy of implant placement with computer-guided surgery in partially edentulous

patients and possible influencing factors: A systematic review and meta-analysis: 66(1), 2022 (2022&2023 被引用総数: 26 回)

- Original Article 部門: Adolfo Di Fiore et al. Comparison of the flexural and surface properties of milled, 3D-printed, and heat polymerized PMMA resins for denture bases: an in vitro study: 66(3), 2022 (2022&2023 被引用総数: 28 回)
- PR チーム: 多田, 松本, 高阪, 高岡



@J.PROSTHODONT.RES



⇒ Instagram 開設による PR 展開 (フォロワー約 900 名)

⇒ Facebook より情報発信 (フォロワー約 700 名)

⇒ Summary Box の新設 ⇒ SNS への活用

⇒ 販促グッズの企画, 展示ブースでの配布

⇒ 学術大会ブース展示

- 第 132 回日本補綴歯科学会学術大会 (2023 年 5 月 19 日～21 日, 横浜)
- 2023 IADR (2023 年 6 月 21 日 ～ 24 日, Bogota, Colombia)
- 第 71 回国際歯科研究学会日本支部会 (2023 年 11 月 25 日～26 日, 仙台)
- 2024 IADR (2024 年 3 月 13 日～16 日, New Orleans, USA)
- ⇒ メールマガジン (JPR 通信) の定期配信 (1 回 / 月: 2023 年 7 月 28 日 18 号～2024 年 6 月 14 日 29 号)
- ⇒ ホームページの改善 (JPR Best Paper Award の PR)
- 出版論文活用チーム: 新谷, 高岡, 竜, 鈴木
- ⇒ JPR 過去論文の領域別データベース構想
- ⇒ 会員が論文誌執筆する際に引用できる JPR 論文検索に貢献
- ⇒ IF 向上への貢献も期待

⇒ Instagram 運用 (論文から PR 素材を抽出しアップロード)

5) 科研費・研究成果公開促進費 (2021 年度～2025 年度) 中間評価への対応

- 資料提出 : 2023 年 12 月 28 日
- ヒアリング: 2024 年 1 月 29 日
- 応募時に設定した取組の目標・評価指標と達成状況 (現時点ですでに 4 つを達成)

①目標 1: アイゲンファクター (EF) 1.5 倍 (0.00215 → 0.00322) への上昇

⇒ 2019 年に 0.00215 であった EF は, 2020 年～2022 年 (3 年間) の平均で 0.00294 と改善し, 2021 年には目標値 0.00322 を達成.

②目標 2: 欧米地域からの投稿論文数割合 30% への上昇

⇒ 2019 年に 17.9% であった欧米地域からの投稿論文数割合は, 3 年間で平均 17.7% と数値的には変化を認めず未達成 (アジアの国々を中心に良質な論文投稿がより増加したことが一因と分析).

③目標 3: 掲載論文数の 20% の増加 (中間評価時の目標は 10% の増加)

⇒ 2019 年に 74 編の掲載論文数は, 2022 年に 89 編 (20% 増), 2023 年に 90 編 (22% 増) となり, 目標を達成.

④目標 4: 論文被引用数の 40% の増加 (中間評価時の目標は 20% の増加)

⇒ 2019 年の IF 対象年の合計被引用数 (400 回) は, 3 年間の平均で 617 回 (54% 増) と目標を達成.

⑤目標 5: IF 値を 3.4 以上に上昇

⇒ 2019 年の IF 2.662 は, 以後 3 年間の平均で 4.19 に急上昇し, 目標を達成 (歯科領域における Q1 の地位を 2016 年から 7 年連続で維持).

• 評価結果: 2024 年 4 月 15 日

『A』: 当初計画が達成されつつあり, 今後の目標達成が見込まれる.

6) 2022 年ジャーナルメトリクス

- Journal Impact Factor : 3.6
⇒ 22 位 / 91 歯科雑誌 (Q1)
- Journal Citation Indicator : 1.52
⇒ 11 位 / 156 歯科雑誌 (Q1)
- 5 Year Impact Factor : 4.0
- Eigenfactor Score : 0.00275

IV. 編集委員会活動報告

1. 委員会構成

委員長: 池邊一典

副委員長: 吉川峰加

委員: 内田悠介, 兒玉直紀, 白井麻衣, 田中順子, 平野滋三, 向坊太郎, 宗像源博, 村上和裕, 村上 格

幹事: 豆野智昭

2. 活動状況

- 1) 編集委員会の開催（計4回、内3回はweb会議、1回は対面会議）
- 2) 日補綴会誌15巻3号を発刊した（2023.7.10）、
依頼論文：5編、専門医症例報告：30編
- 3) 日補綴会誌15巻4号を発刊した（2023.10.10）、
依頼論文：7編、原著論文：1編、専門医症例報告：31編
- 4) 日補綴会誌16巻1号を発刊した（2024.1.10）、
依頼論文：6編、原著論文：2編、専門医症例報告：39編
- 5) 日補綴会誌16巻2号を発刊した（2024.4.10）、
依頼論文：6編、専門医症例報告：21編
- 6) 日補綴会誌（15巻3号～16巻2号）の
J-STAGEへのアップロードを行った。
- 7) 令和5年度の各支部大会抄録集の体裁査読を行い、
日補綴会誌特別版として学会ホームページに掲載した。
- 8) 著作権が日本補綴歯科学会誌にある図表の転載を
許可した（4件）。
- 9) 依頼論文の承諾書の様式を更新した。

V. 財務委員会活動報告

1. 委員会構成

委員長：西村正宏
副委員長：五味治徳
委員：飯田 崇
幹事：末廣史雄

2. 活動状況

- 1) 本会の財務管理と評価・運用の承認
- 2) 公益社団法人としての財産運用上の問題点の抽出
ならびにその改善
- 3) 具体化した公益事業活動内容に関する財務上の審議
- 4) 学術大会および各支部会計報告を基にした収支計算書の作成
- 5) 財務委員会の開催（計6回：WEB会議5回、
メール会議1回）
令和5年度第2回（Web）：
令和5年7月10日（月）
令和5年度第3回（Web）：
令和5年8月3日（月）
令和5年度第4回（メール）：
令和5年11月14日（火）配信

令和5年度第5回（Web）：

令和6年2月2日（金）

令和6年度第1回（Web）：

令和6年5月17日（金）

- 6) 第20期決算報告書（自：令和5年4月1日、至：
令和6年3月31日）の作成準備と検討
- 7) 第132回学術大会決算案の検討および承認
- 8) 第133回学術大会予算案の検討および承認
- 9) 第134回学術大会予算案の検討
- 10) プロソ'23予算案の検討および承認
- 11) プロソ'23収支決算案の検討および承認
- 12) 令和6年度事業計画および予算概要作成の依頼
- 13) 令和6年度収支予算案の作成
- 14) 14th AAP 予算案の検討および承認
- 15) 予算執行状況の把握
- 16) 公益目的保有財産（1号財産）の評価・運用
- 17) 令和5年度収支決算予測に基づく令和6年度資金
調達及び設備投資の見込みに関する検討
- 18) 研究補助金の経費執行処理
- 19) 宿泊費、非会員の参加費免除、懇親会負担等の改
定についての検討
- 20) 職員手当に係わる検討および承認
- 21) 支部でのインボイス制度への対応について
- 22) 各支部および委員会等からの問い合わせへの回
答、ならびに確認依頼への対応
- 23) 公印の管理

VI. 広報委員会活動報告

1. 委員会構成

委員長：上田貴之
副委員長：星 憲幸
委員：今井実喜生、浦田健太郎、岡崎洋平、
大島正充、尾澤昌悟、木山朋美、
西山雄一郎、羽鳥弘毅、富士岳志
幹事：高野智史

2. 活動状況

1) 広報委員会の開催

○令和5年7月10日（月）18：00～19：30にオ
ンライン会議を開催

会議内容

補綴歯科専門医制度について

・本会ホームページの専門医制度に関する情報につ
いて

・規則の掲載・補綴歯科専門医制度「合同委員会」

の国会ホームページ掲載について

- ・専門医・認定医 Map の整理
- ・補綴歯科専門医制度の広報活動について
各種広報媒体 (Facebook, YouTube) の運用実績について

2) 日本補綴歯科学会ホームページの更新

○令和 5 年 6 月 5 日から令和 6 年 5 月 26 日まで、毎週月曜に更新を実施している。今年度は、補綴歯科専門医制度のページを立ち上げた。

3) メールマガジンの発行

令和 5 年 6 月 9 日から令和 6 年 5 月 24 日までの間に JPS メールマガジン No.256 ~ No.278 を発行した。必要な情報を簡潔に網羅し、問題なく隔週で発行を行っている。

4) ニュースレター (Letter for Members) の発行

90 周年記念事業や表彰などの記録を残すことに留意した。

令和 5 年 6 月から令和 6 年 5 月までに以下のとおり発行した。

○令和 5 年 10 月号 (No.73)

- ・設立 90 周年記念事業報告
- ・第 132 回学術大会報告
- ・令和 5 年度専門医研修会報告
- ・シンポジウム開催報告
- ・記念講演会・記念祝賀会
- ・学会マスコットキャラクター
- ・令和 5 年度定時総会
- ・渉外委員会報告
- ・市民フォーラム
- ・JPS student clinical skills competition 報告
- ・受賞者の声
- ・歯科補綴学専門用語集 第 6 版
- ・Prosthodontic Meeting for Next Generation 2023 開催報告
- ・補綴関連講座・分野新教授紹介

○令和 6 年 4 月号 (No.74)

- ・支部学術大会報告
- ・令和 5 年度認定医・専門医筆記試験
- ・第 8 回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'23」の報告
- ・令和 5 年度専門医研修会が開催されました
- ・受賞報告
- ・51st Indian Prosthodontic Society (IPS) Conference 参加レポート
- ・補綴関連講座・分野新教授紹介

5) SNS の活用

Facebook へ記事の投稿を行った。また、学術大

会について、Facebook と Instagram に有料広告の掲載を行った。

6) 設立 90 周年記念事業の広報活動および実施

設立 90 周年記念事業準備委員会と連携し、設立 90 周年記念事業の一環である記念講演会・祝賀会の準備・運営を行った。

7) プレス説明会準備

令和 6 年 5 月に実施を予定し、準備を行った。

8) 補綴歯科および補綴歯科専門医制度の広報

国民および患者に対する補綴歯科および補綴歯科専門医制度の広報について、社会連携委員会と連携し、対応した。ホームページの改修等の検討を行った。

VII. 医療問題検討委員会活動報告

1. 委員会構成

委員長：會田英紀

副委員長：田上直美

委員：池田貴之、上田康夫、黒崎陽子、小島規永、末廣史雄、竹内義真、野川敏史、三野卓哉、依田信裕

アドバイザー：山森徹雄

オブザーバー：窪木拓男理事長、二川浩樹副理事長

幹事：煙山修平

2. 活動状況

1) 委員会開催：16 回

Zoom ミーティングによる Web 会議を令和 5 年 8 月 17 日ならびに 9 月 28 日に開催、対面会議を令和 5 年 12 月 14 日に開催したほか、メール会議を 13 回開催した。

2) 医療技術関連

(1) 令和 5 年度厚生労働省委託事業「医療技術の評価・再評価に関する支援事業」ヒアリングに出席

本委員会から山森前委員長、會田委員長、田上副委員長、竹内委員、依田委員が出席し、その後の追加質問等にも対応した。

(2) 保険診療におけるチタン冠の診療指針 2023 の公開

竹内委員が中心となって作成した本指針を令和 5 年 9 月 12 日に学会 HP 上で公開した。

(3) PEEK 冠に関する基本的な考え方 (第 1 報) の公開

厚生労働省からの要請に応じて、山森前委員

長が中心となって作成した原案を元に委員会内でブラッシュアップしたものを提出した。その後、厚生労働省にもご確認いただいた後に令和5年12月11日に学会HP上で公開した。

(4) CAD/CAM 冠の大白歯単冠症例への適用拡大に関する要望書の提出

厚生労働省からの修正依頼に応じて、以前に提出していた「CAD/CAM 冠の大白歯単冠症例への適用に関する見解」を元に、新たに本学会からの要望書としてまとめたものを提出した。

(5) デンタルダイヤモンド社からの執筆依頼への対応

PEEK 冠に関して「月刊 デンタルダイヤモンド」の「Q&A」への執筆依頼があり、本学会として津賀一弘先生、安部倉仁先生を推薦した。

(6) 前歯部高強度硬質レジンブリッジの保険適用に関する意見書の提出

厚生労働省から前歯部高強度硬質レジンブリッジについて照会があり、五味治徳先生、新谷明一先生より情報提供をいただき本学会としての意見書を作成し、提出した。

(7) 都道府県歯科医師会社会保険担当理事連絡協議会への参加

令和6年3月9日に開催された標記会議に小島委員が参加した。

(8) 接着カンチレバー装置の基本的な考え方の公開

厚生労働省からの要請に応じて、田上副委員長が中心となって作成した本指針を令和6年4月1日に学会HP上で公開した。

(9) 保険診療における CAD/CAM 冠の診療指針 2024 の公開

厚生労働省からの要請に応じて、會田委員長、竹内委員が中心となって保険診療における CAD/CAM 冠の診療指針 2020 と PEEK 冠に関する基本的な考え方（第1報）を統合し、さらに大白歯単冠症例への適用拡大ならびにエンドクラウンの項目を加えた本指針を令和6年4月1日に学会HP上で公開した。

(10) 顎堤吸収が高度に進行した下顎総義歯の仮床製作のためのフレンジテクニックに関する診療指針の公開

鱒見進一先生、楨原絵理先生に作成していただいた原案を元に委員会内でブラッシュアップしたものを令和6年4月16日に学会HP上で公開した。

(11) 厚生労働省からの照会事項への対応

令和6年度診療報酬改定に関わる CAD/CAM 冠の大白歯単冠症例への適用拡大、接着カンチレバー装置ならびにエンドクラウンについて厚生労働省から照会があり、本学会としての回答書を作成し、提出した。

(12) 令和8年改定に向けた医療技術評価提案書作成準備について

委員会内で新規医療技術の候補をリストアップし、対面会議において各候補の新規性や保険収載の可能性について討議を行い、根拠となるエビデンスの有無についても確認した。

3) 歯学系学会社会保険委員会（歯保連）関連

(1) 2023 年第1回歯学系学会社会保険委員会連合総会への参加

令和5年8月30日に開催された標記会議に山森前委員長、會田委員長が参加した。

(2) 歯保連試案 2024 作成に向けて

新規技術項目掲載要望提案フォーム作成し、提出した。

(3) 令和5年度第1回日本歯科医師会保険適用検討委員会への参加

令和5年9月6日に開催された標記 Web 会議に會田委員長、田上副委員長が参加した。また、その後5回のメール審議にも対応した。

4) 医療問題関連：種々医療問題の調査・検討

(1) 令和5年度医療問題関連事業「課題」募集（第2回）

西尾健介先生から提出された「義歯の使用状況と栄養状態の関連性についての調査研究」の申請課題要旨を委員会で確認後、提出した。本件はその後、課題番号 JDSF-DSP1-2023-103-2 として採択された。

(2) 医療問題関連事業和文報告書の提出

以下3件の和文報告書が提出された。

・令和4年度採択課題

3D プリンターによる全部床義歯の臨床的評価に関する研究（担当：新保秀仁先生、大久保力廣先生）課題番号：DSF-DSP1-2022-103-1

・令和5年度採択課題

全部床義歯における複製義歯の臨床的活用法についての調査研究（担当：依田信裕先生）課題番号：DSF-DSP1-2023-103-1

・令和5年度採択課題

義歯の使用状況と栄養状態の関連性についての調査研究（担当：西尾健介先生）課題番号：DSF-DSP1-2023-103-2

(3) 医療問題関連事業英文報告書の提出

令和4年度採択課題 大白歯におけるコンボジットレジンによるCAD/CAMエンドクラウンの適応について（担当：竹内義真先生）課題番号：DSF-DSP1-2022-103-2の英文論文がJapanese Dental Science Reviewに受理された。

(4) 令和6年度医療問題関連事業「課題」募集（第1回）

学術委員会ならびに研究企画推進委員会からそれぞれ2件ずつ申請のあった以下4件の申請を提出した。本件はその後、課題番号JDSF-DSP1-2024-103-1～4として採択された。

- ・咀嚼能力評価の標準化に向けての調査研究（担当：稲用友佳先生）
- ・高齢者の多剤服用（ポリファーマシー）と口腔機能との関連性についての研究（担当：荻野洋一郎先生）
- ・補綴歯科治療の診断におけるAIの応用の可能性の調査研究（担当：権田知也先生）
- ・認知症者の歯科受診率と補綴治療ニーズの調査研究（担当：釘宮嘉浩先生）

VIII. 診療ガイドライン委員会

1. 委員会構成

委員長：松香芳三

副委員長：水口 一

委員：大倉一夫、覺道昌樹、土井一矢、西山 暁、山口賀大、渡邊 恵

協力者：玉置勝司

幹事：大島正充

2. 活動状況

- ・令和5年度第1回診療ガイドライン委員会（オンライン会議）2023年4月28日
- ・令和5年度第2回診療ガイドライン委員会（オンライン会議）2023年6月12日
- ・令和5年度第3回診療ガイドライン委員会（オンライン会議）2023年8月21日
- ・令和5年度第4回診療ガイドライン委員会（現地開催・事務局）2023年10月30日
- ・令和5年度第5回診療ガイドライン委員会（オンライン会議）2023年12月4日
- ・令和5年度第6回診療ガイドライン委員会（オンライン会議）2024年2月6日

- ・令和5年度第7回診療ガイドライン委員会（オンライン会議）2024年3月11日
- ・必要に応じて、適宜メール会議を実施

3. 活動内容

1) 咀嚼障害診断のための包括的な診断樹作成

咀嚼障害の要因について医中誌を中心に検索した文献をリストアップし、大項目、中項目、小項目の内容に統一性を持たせるように構造化している。まずは日本語版の出版物として、医科領域にも理解を得られる包括的診断樹を作成していく予定である。

2) 咬合違和感症候群（ODS）に関するテクニカルアプレイザル作成

本臨床指針の各CQに関する重要キーワードを用いた検索式にて、該当する論文数を調査している。現在は複数の検索データベース（医中誌、PUBMED、Cochrane Library）を用いて検討中であり、咬合違和感症候群に関連した文献は少ないものの、最適な検索式を設定していく。

3) 接着ブリッジ（追補版）に関する診療ガイドライン改訂

接着ブリッジガイドライン（追補版）における推奨文の草案作成を行い、推奨文決定会議を開催した。今後は診療ガイドラインの体裁を整えて、今後は外部評価（日本接着歯学会）とパブコメ募集を行う。

4) CAD/CAMに関する診療ガイドライン作成

システマティックレビュー（SR）チームと推奨文決定会議のパネリストにおいて、ガイドライン名、ならびにCQ案とアウトカム候補について決定済である。現在のところ、PUBMED・SCOPUSに加えて、医中誌でも検索式による文献数の調査等を行っている。今後、順次エビデンスシートを作成し、SRメンバーにて一次スクリーニングを行う。

5) Digital Scanに関する診療ガイドライン作成

CQ候補についてPICO設定および検索式の修正を行い、対象論文数の調査を進めている。医療問題検討委員会における来年の医療技術提案書（CAD/CAM冠における光学印象）の申請に併せて、本ガイドラインの策定を加速する必要がある、早期に出版できる可能性のある臨床指針としての策定も検討中である。

6) 専門医制度に関わる日本補綴歯科学会（既存）診療ガイドラインの改訂

日本補綴歯科学会ホームページに掲載されている改定・削除に該当する古いガイドライン・治療指針を整理するにあたり、修練医・認定医・専門医制度委員会および広報委員会と連携で作業を進めた。

7) 診療ガイドライン・治療指針の普及活動, CQ 公募システム検討

補綴学会会員にとって有益な診療ガイドライン作成を行うために、本学会のガイドライン普及活動, および CQ 公募を行う方法を検討している。普及活動の一環として、第 133 回補綴歯科学会の診療ガイドラインセミナーを視聴した会員に WEB アンケートを準備しており、今後作成を希望するガイドラインや意見等を聞く準備をしている。

8) 『軟質リライン材によるリラインのガイドライン 2023』の論文掲載について

新潟大学の長谷川陽子先生を筆頭に、『軟質リライン材によるリラインのガイドライン 2023』の作成において実施したシステムティックレビューが JPR に掲載された。

9) Minds 第 26 回診療ガイドライン作成に関する意見交換会における『軟質リライン材によるリラインのガイドライン 2023』の講演

本診療ガイドライン作成にご尽力をいただいた新潟大学の長谷川陽子先生に『軟質リライン材によるリラインのガイドライン 2023』に関する講演をしていただいた。

10) 第 133 回日本補綴歯科学会 診療ガイドライン委員会セミナーの開催について

第 133 回日本補綴歯科学会にて、診療ガイドライン委員会セミナーを開催予定である。

2024 年 7 月 6 日 (土) 18:00 ~

セミナータイトル:「接着ブリッジ診療ガイドライン追補版について (仮)」

座長: 水口 一 (岡山大), 松香芳三 (徳島大)

講師: 水口 一 (岡山大), 新谷明一 (日歯大),

三浦賞子 (明海大) [敬称略]

IX. 教育問題検討委員会

1. 委員会構成

委員長: 築山能大

副委員長: 島田明子

委員: 大久保昌和, 曾根峰世, 田中晋平,
原 哲也

幹 事: 大木郷資

2. 活動状況

1) 「CAD/CAM 冠に卒前教育に関するアンケート」調査について

(1) 2023 年 7-8 月 メール会議

「CAD/CAM 冠の卒前教育に関するアンケート」についてアンケート本文および構成について検討し, Google Form 上で試行した。

(2) アンケート調査の実施

アンケートを全国 29 歯科大学学長・大学歯学部長あてに発送 [2023 年 8 月下旬], Google Form 上に 24 校から回答を得た [9 月末]。

(3) 委員会セミナーの実施 [2024 年 7 月 5 日]

アンケート結果をとりまとめて, 第 133 回学術大会において委員会セミナー「CAD/CAM 冠の卒前教育」を実施予定。

2) 補綴歯科専門医研修カリキュラム, 補綴歯科専門医研修評価記録 (実習帳) 等の内容について

(1) 前委員会からの引継ぎ内容の確認

補綴歯科専門医研修評価記録 (実習帳) および関連資料について, 鮎川前委員長から説明を受け, 5 年間の専門医研修で実施・修得すべき事項について確認した [2023 年 10 月]。

(2) 委員会内メール会議 [2024 年 2 月 27 日~]

補綴歯科専門医研修カリキュラム, 補綴歯科専門医研修評価記録 (実習帳) および関連資料の内容について, 過不足の有無や項目再編の可否等を委員会内で確認, 検討を実施 [継続審議中]。

3) 第 6 回 JPS-SCSC (student clinical skills competition) について

委員全員で第一次審査 (26 名対象) を実施し, 結果を提出した [2024 年 3 月 24 日]。大久保委員, 曾根委員, 築山委員長が第二次審査 (6 名対象) に参画した [6 月 2 日]。

X. 修練医・認定医・専門医制度委員会

1. 委員会構成

委員長: 鮎川保則

副委員長: 隅田由香

委員 (五十音順): 秋葉奈美, 池田敏和, 石田雄一,
岩田好弘, 加我公行, 木本 統, 近藤祐介,
関根秀志, 高橋一也, 張 曉旭, 中本哲自,
水橋 史

幹 事: 松崎達哉

2. 活動状況

メール回議にて必要時随時実施

- ・令和6年度補綴歯科専門医研修会の日程・内容決定
- ・口腔顔面痛学会 共通研修単位認定連携について
- ・補綴歯科専門医制度 規程および施行細則の改正についての発議

3. 活動内容

1) プロソ'23 単位認定業務

2023年11月5日(日) 愛知学院大学末盛キャンパス 教育研究棟

2) 令和5年度専門医研修会の開催 (WEB 配信+オンデマンド)

第3回 2023年9月10日(日)

10:00～12:00

テーマ:「顎機能障害の補綴治療(顎関節症治療の基本)」

座長: 羽毛田 匡(東京支部), 鮎川保則(制度委員会)

講師: 島田明子(九州支部), 荒井良明(関越支部)

第4回 2023年11月26日(日)

10:00～12:00

テーマ:「歯科材料と技術(ファイバーポストによる支台築造と予後)」

座長: 加来 賢(関越支部), 秋葉奈美(制度委員会)

講師: 坪田有史(東京支部), 吉田圭一(九州支部)

第5回 2024年1月21日(日)

10:00～12:00

テーマ:「全部床義歯の印象法と咬合調整を再考する」

座長: 佐藤洋平(西関東支部), 池田敏和(制度委員会)

講師: 兒玉直紀(中国・四国支部), 松田謙一(関西支部)

3) 令和6年度専門医研修会の開催 (WEB 配信+オンデマンド)

第1回 2024年6月16日(日)

10:00～12:00

テーマ:「口腔機能検査の補綴歯科治療へのフィードバック」

座長: 永尾 寛(中国・四国支部), 岩田好弘(制度委員会)

講師: 太田 緑(東京支部), 吉川峰加(中国・

四国支部)

4) 2024年度認定医・専門医多肢選択式筆記試験の作成依頼およびブラッシュアップ

社員に令和5年12月29日を期限として問題作成を依頼した。問題提出が完了した後、制度委員でブラッシュアップ実施。

4. その他

(1) 2024年度認定医・専門医多肢選択式筆記試験の準備

日時: 令和6年7月5日(金)

14:50～15:40

場所: 幕張メッセ 国際会議場コンベンションホール A (受験予定者207名のため当初予定より大きな会場へ変更)

(2) 第133回学術大会における修練医・認定医・専門医制度委員会セミナー(共通研修①)の企画

日時: 7月5日(金) 16:40～17:50

第2会場

「安全な補綴歯科診療の実現に必要な有病高齢者のリスクマネジメント」

2040年日本の高齢人口はピークを迎える。これに伴い、来院患者の人口動態も変化し、基礎疾患を有する患者や、またさまざまな社会的背景を有する患者等の割合の増大が起きることは間違いない。補綴治療に従事する医療人である我々は、これまで以上に総合的に診察を行い、安全で質の高い歯科医療を提供に努める必要がある。そこで、本研修会では、歯科補綴治療に必須の全身疾患や薬物の知識、全身的偶発症を予防するための医学的エビデンスに基づいたリスクマネジメントを学ぶ。

座長: 隅田由香(日歯大)

講師: 大渡凡人(九歯大/医歯大)

XI. 修練医・認定医・専門医認定委員会

1. 委員会構成

委員長: 小峰 太

副委員長: 永尾 寛

委員: 駒田 亘, 野本俊太郎, 松浦尚志, 上田康夫, 長澤麻沙子, 伊藤誠康, 猪越正直, 安藤栄里子, 富士岳志, 有川香織, 大倉一夫, 吉田圭一

幹事: 本田順一

2. 活動状況

1) 修練医・認定医・専門医認定委員会の開催

- (1) 令和5年度第2回修練医・認定医・専門医認定委員会
令和5年11月1日(ハイブリッド開催)
- (2) 令和5年度第3回修練医・認定医・専門医認定委員会
令和5年11月16日～22日(メール開催)
- (3) 令和5年度第4回修練医・認定医・専門医認定委員会
令和5年11月21日～25日(メール開催)
- (4) 令和5年度第5回修練医・認定医・専門医認定委員会
令和6年3月27日(Web開催)
- (5) 令和6年度第1回修練医・認定医・専門医認定委員会
令和6年5月8日(ハイブリッド開催)

2) 専門医申請ケースプレゼンテーション:計5題

- (1) 九州支部学術大会 1題
- (2) 関西支部学術大会 3題
- (3) 東関東支部学術大会 1題

3) 日本補綴歯科学会認定修練医, 認定医, 専門医, 指導医, 終身指導医, 登録技工士の新規認定

- (1) 修練医 8名
- (2) 認定医 50名
- (3) 専門医 98名
- (3) 指導医 27名
- (4) 終身指導医 10名
- (5) 登録技工士 10名

4) 日本補綴歯科学会認定修練医, 認定医, 専門医の更新認定

- (1) 修練医 9名
- (2) 認定医 56名
- (3) 専門医 31名

5) 日本補綴歯科学会認定専門医・指導医の退会に伴う資格喪失に対する審議 7名

6) 認定研修機関の代表指導医交代(甲)12機関

7) 認定研修機関の研修機関名変更(甲)3機関

(乙)4機関

8) 認定研修機関の資格喪失(甲)1機関

9) 日本補綴歯科学会認定専門医の休止に対する報告 3名

10) 専門医症例報告査読

計93編(令和6年3月31日時点)の症例報告論文が投稿され査読された。なお、ケースプレゼンテーションにおける2名の審査委員が査読を担当

する査読者2名体制での査読方法を継続している。

11) 補綴歯科専門医認定試験の開催

オンラインによる試験(筆記試験)を開催した。
令和5年11月19日受験者数41名(合格者39名)
令和6年5月19日受験者数35名(合格者34名)
評価方法
受験者に対して3名の採点者が担当し、ルーブリック評価を用いて採点を行った。

XII. 社会連携委員会

1. 委員会構成

委員長:新谷明一

副委員長:小泉寛恭

委員:川口智弘, 重田優子, 松田謙一

幹事:石田祥己

2. 活動状況

委員会は対面による会議を1回, ZoomによるWeb会議を4回, メール会議を18回開催した。各支部の生涯学習公開セミナーおよび市民フォーラム, 都道府県歯科医師会との共催生涯学習公開セミナーのテーマ, 座長および講師, ホームページの更新, 「補綴歯科」啓蒙ポスターの作成, リーフレットの更新, マスコットおよび市民フォーラム動画の使用許諾に関する協議を行った。

令和2年度より実施されている都道府県歯科医師会と共催の生涯学習セミナーは3件(三重県, 福岡県, 山口県)の応募があり, 3件すべてを実施した。また, 令和6年度実施要領を作成し, 日本歯科医学会に連絡した。市民フォーラムは3支部において開催された。それ以外の活動として, 補綴学会ホームページの更新案の作成, 「補綴歯科」啓蒙ポスターの第1・2弾およびリーフレット更新案の作成および準備を行った。また, 補綴学会のマスコットキャラクターおよび市民フォーラム動画の二次利用の申請があり, 許諾した。

1) 都道府県歯科医師会との共催生涯学習公開セミナーの開催

・三重県歯科医師会

日時:令和5年10月1日

場所:Webとのハイブリッド開催(三重県歯科医師会館)

テーマ:スポーツ歯科への取り組み

座長:小泉寛恭(日本大学)

講師:大木郷資(九州大学)

近藤尚知（愛知学院大学）

・山口県歯科医師会

日 時：令和5年11月23日

場 所：Web とのハイブリッド開催（山口県歯科医師会館）

テーマ：義歯内面には、柔らかい材料が良いか？
一軟質リライン材の正しい使い方

座 長：重田優子（鶴見大学）

講 師：河相安彦（日本大学）

村田比呂司（長崎大学）

・福岡県歯科医師会

日 時：令和6年1月7日

場 所：Web 開催

テーマ：スポーツ歯科への取り組み

座 長：川口智弘（福岡歯科大学）

講 師：松村英尚（九州支部）

大木郷資（九州大学）

2) 支部主催生涯学習公開セミナーの開催

・東北・北海道支部

日 時：令和5年12月17日

場 所：Web 開催

テーマ：『栄養摂取』と『美味しい』を守る補綴
歯科

座 長：羽鳥弘毅（奥羽大学）

講 師：吉川峰加（広島大学）

谷口裕重（朝日大学・非会員）

・関越支部

日 時：令和5年11月5日

場 所：日本歯科大学新潟生命歯学部

テーマ：垂直歯根破折歯の救済と補綴的対応

座 長：魚島勝美（新潟大学）

講 師：長澤麻沙子（新潟大学）

眞坂こづえ（眞坂歯科医院）

・東関東支部

日 時：令和6年3月17日

場 所：ロイヤルパインズホテル浦和

テーマ：前歯部の審美修復処置に必要なこと

座 長：小見山 道（日本大学）

講 師：脇 智典（東京支部）

林 丈一郎（明海大学・非会員）

・東京支部

日 時：令和5年12月3日

場 所：日本大学歯学部本館 創立100周年記念
講堂

テーマ：顎顔面補綴治療が達成する術後のQOL

座 長：大谷賢二（日本大学）

講 師：生木俊輔（日本大学・非会員）

大山哲生（日本大学）

・西関東支部

日 時：令和6年1月7日

場 所：神奈川県歯科医師会館

テーマ：「栄養摂取」と「美味しい」を守る補綴
歯科

座 長：井野 智（神奈川歯科大学）

講 師：菅 武雄（鶴見大学）

鈴木真由美（東京女子医科大学・非会員）

・東海支部

日 時：令和5年11月26日

場 所：愛知学院大学楠元キャンパス 110周年
記念講堂

テーマ：「おいしく食べる」を考える

座 長：藤原 周（朝日大学）

講 師：渡邊 哲（愛知学院大学・非会員）

宮本佳宏（愛知学院大学）

・関西支部

日 時：令和6年1月28日

場 所：大阪歯科大学創立100周年記念館 4階
大講義室

テーマ：咀嚼と栄養の科学：歯科の視点から

座 長：川本章代（大阪歯科大学）

講 師：長谷川陽子（新潟大学）

・中国・四国支部

日 時：令和5年9月3日

場 所：高知県歯科医師会館（総合あんしんセン
ター内）

テーマ：有病者・高齢者と補綴歯科について

座 長：織田展輔（織田歯科医院）

講 師：吉田光由（藤田医科大学）

曾我賢彦（岡山大学・非会員）

・九州支部

日 時：令和5年10月8日

場 所：福岡歯科大学 50周年記念講堂

テーマ：より良い治療計画の立案のために

座 長：松浦尚志（福岡歯科大学）

講 師：土屋嘉都彦（土屋デンタルクリニック大
分オフィス・非会員）

松永興昌（九州支部）

3) 市民フォーラムの開催

・東京支部

日 時：令和5年12月3日

場 所：日本大学歯学部本館 創立100周年記念
講堂

テーマ：睡眠時無呼吸症への歯科的対応について

座 長：月村直樹（日本大学）

講 師：浦田健太郎（日本大学）

・中国・四国支部

日 時：令和5年9月3日

場 所：Web 開催

テーマ：健康長寿は口の健康から—あなたの咀嚼（そしゃく）、嚥下（えんげ）は大丈夫？—

講 師：中野雅徳（徳島文理大学）

・九州支部

日 時：令和5年10月8日

場 所：福岡歯科大学 50周年記念講堂

テーマ：義歯と健康

座 長：吉田兼義（福岡歯科大学）

講 師：都築 尊（福岡歯科大学）

4) 補綴学会ホームページの更新案の作成

補綴学会ホームページの更新について内容を委員会で協議し、更新案の作成を行った。広報委員会とも協議を行い、ブランディングに関する会議を合同で行った。

5) 「補綴歯科」啓蒙ポスターの作成

「補綴歯科専門医」および「補綴歯科」の啓蒙を目的に、ポスター案を作成した。第一弾は「補綴歯科専門医」の啓蒙を目的とし、第一弾ポスター案について専門医機構に問い合わせを行った。第二弾は「補綴歯科」の啓蒙を目的とし、委員会内でブラッシュアップしてポスター案を作成した。

6) リーフレット更新案の作成

リーフレットの更新案について委員会で協議して作成した。

XIII. 国際渉外委員会

1. 委員会構成

委 員 長：猪越正直

副委員長：金澤 学

委 員：太田 緑，小川 徹，黒嶋伸一郎，

三浦賞子，峯 篤史

幹 事：濱 洋平

陪 席：窪木拓男，魚島勝美

2. 活動状況(令和5年6月1日～令和6年5月31日)

1) Zoom による渉外委員会5回

- ・令和5年7月20日（木） 19：30～
令和5年度 第2回渉外委員会

- ・令和5年9月22日（金） 18：45～

- 令和5年度 第3回渉外委員会

- ・令和5年11月9日（木） 19：30～

- 令和5年度 第4回渉外委員会

- ・令和6年2月7日（水） 19：30～

- 令和5年度 第5回渉外委員会

- ・令和6年4月15日（月） 19：30～

- 令和6年度 第1回渉外委員会

2) メール会議3回

- ・令和5年8月23日（水）

- ・令和5年8月31日（木）

- ・令和5年9月6日（水）

3) PCSP (Pacific Coast Society for Prosthodontics) とのミーティング (Zoom)

- ・令和4年12月18日（日） 18：00～

3. 活動内容

1) 国際交流

① Asian Academy of Prosthodontics (AAP)

- ・令和5年9月24日(日) 27th Executive Council Meeting .

窪木拓男理事長，細川隆司先生，澤瀬 隆先生，猪越渉外委員長，濱渉外幹事が参加。

- ・AAPNewsletter2022 への寄稿

- ・4th Biennial Congress of Asian Academy of Prosthodontics の運営準備

日本補綴歯科学会第133回学術大会と共催で開催。

渉外委員会および14th AAP 準備委員会にて運営する。

【14th AAP 準備委員】(敬称略)

1. Congress Chair：窪木拓男

2. Secretary：魚島勝美

3. Scientific chairperson：猪越正直

4. Treasurer：濱 洋平

5. Organizing committee member：長澤麻沙子

第133回学術大会 大会校と連携し，プログラム作成，各種 Award の準備，演題登録システム・参加登録システムの整備，HP 作成，一般演題査読，海外招待演者・要人の宿泊手配，海外参加者からの問い合わせ対応（招聘状手配など），会場運営手配，懇親会準備など担当した。

- ・ABP (Asian Board of Prosthodontics) の Chair person である細川隆司先生（九歯大）が AAP EC 会議にて，ABP に関する進捗状況報告を行った。

② Indian Prosthodontic Society (IPS)

- ・IPS から日本への短期留学希望者 5 名の受け入れ、受け入れ大学は、愛知学院大学（近藤尚知先生）、岡山大学（窪木拓男先生）、昭和大学（馬場一美先生）、東京歯科大学（上田貴之先生）、徳島大学（松香芳三先生）。
- ・51st Indian Prosthodontic Society Conference (Goa, 2023. 12/8-10) へ招待演者を推薦し、講演が行われた：猪越正直渉外委員長（医歯大）、土田優美先生（医歯大）。ホームページ、による本会会員へ学会開催の周知。
- ③ International Association for Dental Research (IADR)
 - ・IADR Prosthodontics Research Group Pre-Prosthetic Regenerative Science Award for Young Investigators (The 102 General Session & Exhibition of the IADR, 2024/3/13-16) へ 1000 ドルを拠出
 - ・The 102nd General Session & Exhibition of the IADR：ホームページによる本会会員へ学会開催の周知
- ④ American Prosthodontic Society (APS)
 - ・令和 5 年度は活動なし
- ⑥ Asian Academy of Osseointegration (AAO)
 - ・令和 5 年度は活動なし
- ⑦ European Prosthodontic Association (EPA)
 - ・The 47th Annual EPA Conference：ホームページによる本会会員へ学会開催の周知
- ⑧ Pacific Coast Society for Prosthodontics (PCSP)
 - ・89th PCSP Annual Meeting and Scientific Session への参加とポスター発表の依頼を委員長会で案内するとともに、近藤尚知学会連携委員長に SJCD への周知依頼。JPS からは窪木拓男理事長の招待講演および 9 名の一般口演を行うこととなった。
 - ・14th Biennial Congress of Asian Academy of Prosthodontics において、JPS-AAP joint session-PCSP special lecture として、PCSP 次期 President の Jean Wu 先生に講演いただくことになった。
- ⑨ Academy Prosthodontics (AP)
 - ・令和 5 年度は活動なし
- ⑩ European Association for Osseointegration (EAO)
 - ・European Association for Osseointegration 31st annual scientific meeting：ホームページによる本会会員へ学会開催の周知
- ⑪ Korean Academy of Prosthodontics (KAP)

- ・令和 5 年度は活動なし
- ⑫ International College Prosthodontists (ICP)
 - ・The ICP 2023 London Symposium Satellite Meeting and the ICP 2023 Biennial Meeting in Shanghai, China：メールマガジンによる本会会員へ学会開催の周知。馬場一美先生（昭和大）が ICP より招聘され、ICP2023, LONDON SYMPOSIUM-SATELLITE MEETING (2023. 8/30-9/2) の Invited Speaker として講演。
- ⑬ Chinese Prosthodontic Society (CPS)
 - ・令和 5 年度は活動なし
- ⑭ Greater New York Academy of Prosthodontics (GNYAP)
 - ・令和 5 年度は活動なし
- ⑮ JPS-CPS-KAP（日中韓合同補綴学会）
 - ・8th Biennial Joint Congress of JPS-CPS-KAP（広州・中国、2024 年 3 月 3-5 日）が開催され、JPS からは 24 名招待され、参加した。
- 2) その他
 - ・日本補綴歯科学会 Letter for members への寄稿 1 回
 - ・日本補綴歯科学会 Letter for members への寄稿に対する校正作業 1 回
 - ・メルマガへの学会情報提供 3 回
 - ・令和 5 年 8 月 18 日（金）第 1 回 14thAAP 準備委員会
 - ・令和 5 年 9 月 21 日（木）第 2 回 14thAAP 準備委員会
 - ・令和 5 年 10 月 11 日（水）133rd JPS/14th AAP システム WEB 会議
 - ・令和 6 年 5 月 10 日（金）第 3 回 14thAAP 準備委員会
 - ・令和 6 年度事業計画・予算概要提出

XIV. 学会連携委員会

1. 委員会構成

委員長：近藤尚知

副委員長：古屋純一

委員：尾立哲郎、神野洋平、高場雅之、古地美佳

幹事：高藤恭子

2. 活動状況

1) 委員会開催

- ・第 1 回：令和 5 年 7 月 25 日（火）オンライン会議

- ・第2回：令和5年8月31日（火）オンライン会議
 - ・第3回：令和5年10月26日（木）オンライン会議
 - ・第4回：令和6年2月2日（木）オンライン会議
 - ・第5回：令和6年4月19日（金）対面＋オンライン会議
 - ・その他必要に応じて適宜メール会議を行った。
- 2) 日本栄養治療学会（JSPEN）との連携について
- ・令和6年度開催の第133回学術大会で協定書の調印を行う予定。
連携協定調印書を作成し、両学会理事会にて承認された。
 - ・同学術大会のメインシンポジウムを共催シンポジウムとして開催予定。
開催にあたり申し合わせ事項（内規）を両学会理事会にて確認した。
テーマ『補綴歯科治療と栄養治療の新たな連携戦略』
- 座長 古屋純一先生（日本補綴歯科学会・学会連携委員会副委員長）
石井良昌先生（日本栄養治療学会・理事）
- 演者 窪木拓男先生（日本補綴歯科学会・理事長）
鍋谷圭宏先生（日本栄養治療学会・副理事長）
石井良昌先生（日本栄養治療学会）
古屋純一先生（日本補綴歯科学会）
- ・2025年2月に開催されるJSPENの学術大会にて合同シンポジウム開催予定。
今後演者の選定等内容について協議していく予定。
- 3) 日本臨床歯科学会（SJCD）との連携について
- ・2023年11月に開催された『プロソ'23』にて共催セッションを企画した。
 - ・令和6年度の日本補綴歯科学会第133回学術大会においても共催でハンズオンを行う予定。
- 4) 顎咬合学会との連携について
- ・2023年11月に開催された『プロソ'23』にて共催セッションを企画した。
 - ・顎咬合学会より認定委員会（2024年2月4日開催予定）への講師派遣依頼があり、鶴見大学の小川先生にご依頼した。

XV. 規程検討委員会

1. 委員会構成

委員長：武部 純

副委員長：越野 寿

委員：伊藤誠康，栗原大介，坂口 究，都築 尊

幹事：松川良平

2. 活動状況

1) 委員会開催

各委員会等からの発議を受けた規程等改正案および制定案について、条文としての文言の整合性確認と改正を行うために、委員会をメール会議形式で8回開催した。理事会等により審議・承認の得られた規程等を取り纏め、学会HP上の規程集を4回（令和5年6月11日改正，令和5年12月5日改正，令和6年3月23日改正，令和6年5月14日改正）更新した。

- (1) 第1回 Web 会議（Zoom）：令和5年7月19日（火）15：30～17：30
- (2) 第2回（メール会議）：令和5年8月9日（水）
- (3) 第3回（メール会議）：令和5年9月12日（火）～令和5年11月6日（木）
- (4) 第4回（メール会議）：令和5年11月23日（木）～令和5年12月4日（月）
- (5) 第5回（メール会議）：令和6年1月11日（木）～令和6年1月18日（木）
- (6) 第6回（メール会議）：令和6年2月9日（金）～令和6年2月13日（火）
- (7) 第7回（メール会議）：令和6年3月1日（金）～令和6年3月4日（月）
- (8) 第1回（メール会議）：令和6年4月22日（月）～令和6年4月24日（水）

2) 制定した規程

- (1) 29公益社団法人日本補綴歯科学会学会連携委員会規程（令和5年6月11日制定）

3) 改正した規程，規則，細則，および申し合わせ

- (1) 3公益社団法人日本補綴歯科学会役員選任規程（令和5年6月11日改正）
- (2) 17公益社団法人日本補綴歯科学会 JPR 編集委員会規程（令和5年6月11日改正）
- (3) 28公益社団法人日本補綴歯科学会渉外委員会規程（令和5年6月11日改正）
- (4) 14公益社団法人日本補綴歯科学会旅費支給規程（令和6年3月23日改正）
- (5) 51公益社団法人日本補綴歯科学会講演等に係わる謝礼等に関する規則（令和6年3月23日改正）
- (6) 59公益社団法人日本補綴歯科学会登録歯科技工

士制度規則（令和 6 年 3 月 23 日改正）

- (7) ~~64~~公益社団法人日本補綴歯科学会会議に係る交通費、宿泊費等に関する内規（令和 6 年 3 月 23 日改正）
- (8) ~~58~~補綴歯科専門医制度施行細則（令和 6 年 5 月 14 日改正）
- 4) 改正した本会 HP に掲載されている補綴歯科専門医制度に関わる規則
 - (1) 補綴歯科専門医倫理綱領（令和 4 年 10 月 24 日改正）[20240323]
 - (2) 補綴歯科専門医制度施行細則（令和 6 年 5 月 14 日改正）
- 5) 廃止した規程
該当なし
- 6) 改正した支部規則
該当なし
- 7) 今期の主たる改正内容
 - (1) ~~3~~公益社団法人日本補綴歯科学会役員選任規程（令和 5 年 6 月 11 日改正）
(理事)
 - 第 5 条 理事は、次期理事長候補の推薦により、次期理事長候補および次々期理事長候補次期副理事長適任者を含め、計 ~~20~~ ~~22~~ 名を限度として総会で選任する。
 - (2) ~~17~~公益社団法人日本補綴歯科学会 JPR 編集委員会規程（令和 5 年 6 月 11 日改正）
(組織)
 - 第 3 条 本委員会は、委員長 1 名、委員 ~~11~~ ~~17~~ 名以内および幹事 1 名をもって組織する。
 - (3) ~~28~~公益社団法人日本補綴歯科学会渉外委員会規程（令和 5 年 6 月 11 日改正）
(目的)
 - 第 2 条 本委員会は定款第 5 条第 6 号に規定する国際的な研究協力、および国内での研究協力の推進にかかわる業務を行う。
 - 第 4 条 委員長は会務を総括する。
 - 3 委員は、~~国内外海外~~における研究協力の推進に関する本規程 7 条に掲げる事項を審議し、第 8 条に掲げる業務を担当する。
 - 第 7 条 本委員会は、次の事項を審議する。
 - (1) ~~国内外海外~~の関連学会・関連学術団体との交流
 - (2) ~~国内外海外~~の関連学会・関連学術団体との共催学会の企画と運営
 - (3) ~~国内外海外~~の関連学会・関連学術団体への演者および役員の推薦
 - 第 8 条 本委員会は、次の業務を行う。

- (1) 国内外海外の関連学会・関連学術団体に関する情報の収集、およびその広報・通知
- (2) 海外の関連学会・関連学術団体との共催学会開催の支援
- ~~(3) 国内外の関連学会・関連学術団体への外国講師の招聘~~
- (3)~~(4)~~国際フォーラムの企画と運営
- (4)~~(5)~~その他国際渉外および国内渉外に関する事項
- (4) ~~14~~公益社団法人日本補綴歯科学会旅費支給規程（令和 6 年 3 月 23 日改正）
- 第 7 条 宿泊料の額は、1 泊につき ~~10,000~~ ~~15,000~~ 円とする。ただし、特別な理由がある場合、財務担当理事の許可により ~~18,000~~ ~~30,000~~ 円を上限の実費として支給できるものとする。
- (5) ~~51~~公益社団法人日本補綴歯科学会講演等に係わる謝礼等に関する規則（令和 6 年 3 月 23 日改正）
- 第 2 条 各種講演等への諸費用の支出は以下の如く定める。ただし、謝礼と資料代は税引き後の金額とする。）
- (8) 生涯学習公開セミナーおよび市民フォーラム等の講師
オ 宿泊 会員、非会員とも 1 泊につき ~~10,000~~ ~~15,000~~ 円とする。特別な理由がある場合は、財務担当理事の許可により ~~18,000~~ ~~30,000~~ 円を上限の実費として支給できるものとする。
- (9) 生涯学習公開セミナーおよび市民フォーラム等の座長
オ 宿泊 会員、非会員とも 1 泊につき ~~10,000~~ ~~15,000~~ 円とする。特別な理由がある場合は、財務担当理事の許可により ~~18,000~~ ~~30,000~~ 円を上限の実費として支給できるものとする。
- (6) ~~59~~公益社団法人日本補綴歯科学会登録歯科技工士制度規則（令和 6 年 3 月 23 日改正）
- 第 3 条 ~~修練医・認定医・専門医認定委員会が、登録歯科技工士の資格を登録を審査する[ために、修練医・認定医・専門医認定委員会を置く。]~~
- 第 5 条 登録歯科技工士になろうとする者は、必要事項のすべてを記入した申請書（様式 1）に、登録料 2,000 円を添えて、理事長~~本会~~に提出しなければならない。ただし、準会員は登録料を免除する。
- 2 修練医・認定医・専門医認定委員会において審査に合格した者は、前項の申請に基づき登録を

行い、登録証を交付するとともに本会会誌および本会総会において報告する。

~~3 理事会が登録を承認しなかったときは、登録申請書に添えて提出された登録料は、これを返還する。~~

~~4~~ 登録料は毎年度分（4月から翌年3月まで）を当該年度の5月末までに納入しなければならない。ただし、登録料が未納の場合は登録を抹消する。

~~5~~ 推薦者は1名とし、その1名は日本補綴歯科学会の指導医または専門医、あるいは日本歯科技工士会または日本歯科技工学会の会長とする。

(7) ~~64~~ 公益社団法人日本補綴歯科学会会議に係る交通費、宿泊費等に関する内規（令和6年3月23日改正）

1. 会務連絡会、理事会、委員長会、支部長会、各種委員会

宿泊費：午前中の会議で前泊が必要な場合、および、原則午後6時以降に終了する会議で、帰宅不可能あるいは帰宅が深夜に及ぶと思われる場合、財務担当理事の許可を得て支出一律 ~~10,000~~ 15,000円。特別な理由がある場合、財務担当理事の許可により ~~18,000~~ 30,000円を上限の実費として支給できるものとする。

昼食：正午にかかる会議の場合準備。原則として ~~1,500~~ 2,500円まで

(8) ~~58~~ 補綴歯科専門医制度施行細則（令和6年5月14日改正）

第3条 規則第4条を満たし補綴歯科専門医（以下、「専門医」という。）の認定を申請する者は、次の各号に定める書類に認定手数料を添えて補綴歯科専門医認定小委員会（以下、「専門医認定小委員会」という。）に提出しなければならない。

~~(10)~~ 補綴歯科専門医申請用ケースプレゼンテーション申請書および申請時チェックリスト（様式9、9-2）

~~(11)~~ 補綴歯科専門医申請用ケースプレゼンテーション発表内容まとめ（様式10）

~~(12)~~ ~~(10)~~ ケースプレゼンテーション審査結果報告書（様式11）

~~(13)~~ ~~(11)~~ 専門医試験合格証明書の写し

~~(14)~~ ~~(12)~~ 歯科専門医共通研修受講記録の提出

XVI. 用語検討委員会

1. 委員会構成

委員長：小林琢也

副委員長：南 弘之

委員：鬼原英道，新保秀仁，豊下祥史，堀 一浩

幹事：深澤翔太

2. 活動状況

用語委員会を5回開催し以下の活動を行なった。

1) デジタル歯科・口腔インプラント・高齢者医療の関連用語の整備

(1) 歯科補綴学専門用語集第6版と他学会の用語集との用語の照合

歯科補綴学専門用語集第6版の発刊後、老年歯科医学会より「老年歯科学用語辞典 第3版」、歯科技工学会からも最新の用語集が発刊されている。各用語集の中で同一用語であっても、必ずしも用語の解釈と解説が一致しておらず、内容に齟齬のある用語も散見されている。そこで、歯科補綴学専門用語集 第7版の改訂に向け、第6版で掲載されている用語と他学会発刊の用語集の用語との照会作業を進め、検討必要な用語の洗い出し作業を1語1語行なった。これまでに、日本老年歯科医学会、日本顎顔面補綴学会、日本磁気歯科学会、日本口腔インプラント学会、日本デジタル歯科学会、日本歯科医学会、日本顎関節学会が発行している各用語集との照会作業を行ってきた。

今後は、各種学会の用語検討委員会と連携し、解釈に祖語がある用語に関して意見交換を行い用語の整備を進めていく予定である。

2) 有床義歯、クラウン・ブリッジ、顎機能の関連の新たな治療法などの用語の検討

歯科医療は日々進歩しており、新たな治療方法や材料が発表され、新たな用語が生まれている。その用語の妥当性と適切な解説を The Glossary of Prosthodontics Terms 2023 Tenth Edition (GPT-10) と比較検討し提言を行ってきた。

3) 歯科補綴学専門用語集 第7版の改訂に向け第6版の修正と削除用語の検討

他学会の用語集との照会作業を進めながら第7版への改訂に向けて、修正が必要な用語、追加と削除が必要な用語が存在しないか検討を進めている。

XVII. 研究企画推進委員会

1. 委員会構成

委員長：笛木賢治

副委員長：木本克彦

委員：安部友佳，上田貴之，窪木拓男，
佐々木啓一，眞鍋雄太，白石 成，
釘宮嘉浩

幹事：稲用友佳

2. 活動状況

1) 委員会開催

令和5年10月27日に第1回委員会を開催した。また、認知機能と口腔機能の相関に関する医科歯科連携研究ではWeb会議（月1回）とメール会議を行った。

3. 活動内容

1) 認知機能と口腔機能の相関に関する医科歯科連携研究（ECCO プロジェクト）

(1) (公社) 日本老年精神医学会と共同で実施した「医科歯科双方向アンケートによる認知機能と口腔機能の相関に関する質的研究」に関する論文が老年精神医学雑誌に掲載された（笛木賢治，眞鍋雄太，佐々木啓一，橋本 衛，木本克彦，石川智久，上田貴之，内海久美子，釘宮嘉浩，白石 成，安部友佳，稲用友佳，馬場一美，窪木拓男，池田 学。認知機能と口腔機能の相関に関する医師・歯科医師の意識調査：医科歯科連携 ECCO プロジェクト。老年精神医学雑誌，35 巻 3 号：283-289；2024）。医科歯科連携に関するアンケートの論文が，認知症と口腔機能誌に受理された（令和6年4月15日）。

(2) ECCO プロジェクトの活動概要に関する英文論文を Journal of Prosthodontic Research に Letter to Editor として投稿した。

(3) 口腔機能と認知症の行動・心理症状との関連を解明する多施設共同研究を立案し実施体制を構築した。予備研究として，認知症と軽度認知障害患者における咀嚼能力質問票の妥当性と信頼性を検証し，日本補綴歯科学会第133回学術大会，第39回日本老年精神医学会に抄録を投稿した。

2) 咀嚼機能検査法の標準化に向けての研究プロジェクト

咀嚼機能検査法と健康関連パラメータとの相関

についてのスコーピングレビューの論文作成を進めている。次段階として，色変わりガム法，グミゼリー法，咬合力の標準スコアについてメタ解析を立案しプロコルを作成した。

3) 「健康な食事・食環境」コンソーシアムへの参画

令和5年7月2日に開催された一般社団法人健康な食事・食環境コンソーシアムの臨時総会と第7回認証審査会に参加し，法人の運営体制の協議，新規・更新申請分の認証評価を行った。

4) その他

令和6年度医療問題関連事業に2課題（咀嚼能力評価の標準化に向けての調査研究，認知症者の歯科受診率と補綴治療ニーズの調査研究）を申請し採択された。

XVIII. 特命委員会 I（データベース担当）活動報告

1. 委員会構成

委員長：前川賢治

副委員長：熱田 生

委員：岩佐文則，駒ヶ嶺友梨子，鈴木啓之，
依田信裕

幹事：三野卓哉

2. 活動状況

1) 委員会開催

令和5年7月12日（水）第1回特命委員会 I（web 会議）

令和5年10月13日（金）第2回特命委員会 I（対面会議）

令和5年12月4日（金）第3回特命委員会 I（web 会議）

その他，必要に応じて少人数での web 会議ならびにメール会議を実施。

本委員会の使命は，補綴歯科専門医（日本歯科専門医機構認定）の申請に必須となる難症例データに加えて，補綴治療の価値を評価するうえで重要となるアウトカムや臨床項目を経時的に蓄積可能なデータベースを構築することである。そこで，修練医・認定医・専門医制度委員会から難症例データの報告に必要な最新項目を提供いただき，従来から補綴学会の難症例報告に必要なとされている術前，術後の診査票ならびに質問票に含まれている項目を統合して，データベース構築業者に情報を提供した。その後，データベース構築業者より受領したデータベースアプリの試作品を各委員に使用いただき，改善点

をフィードバックした。

並行して、補綴治療の価値を評価するうえで重要となるアウトカムや臨床項目について委員会内で協議を行い、口腔インプラント治療、咀嚼機能、認知機能ならびに栄養状態を評価する項目をリストし、最適化を図った。最適化を図った項目をまとめて、データベース構築業者に情報を提供した。

- 2) 奥・片山・佐藤法律事務所の担当弁護士との打ち合わせ

令和6年2月19日(月)(Web会議)

患者情報が含まれるデータベースとなることから、個人情報保護法に抵触しうる可能性があることや、データベースに入力されたデータを今後の研究に用いる際に、患者に事前に説明、同意を受けておく必要性等に関して、弁護士事務所と複数回のメールでの相談とweb会議を実施した。本件に関しては、すでに同様のデータベースを構築している医科系学会の担当者からも情報提供を受けており、今後対策法を詰める予定である。

XIX. 特命委員会Ⅱ(若手育成担当)活動報告

1. 委員会構成

委員長：小川 匠

副委員長：高津匡樹

委員：福西美弥，本田順一，峯 裕一，
四ツ谷 護

幹 事：井川知子

2. 活動状況(令和5年6月～令和6年5月)

特命委員会Ⅱ会議4回，メール会議7回開催し，以下の活動を行った。

- 1) PMNG2024(Prosthodontic Meeting for Next Generation 2024)企画準備，実施

- (1) 会期：2024年3月29日(金)・3月30日(土)
- (2) 会場：KKRホテル熱海(現地開催)
- (3) 主管校：鶴見大学クラウンブリッジ補綴学講座
- (4) テーマ：「日本補綴学会に若手歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士が求めるもの：ニーズと期待の探求」

- (5) 講演：5題

特別講演1(研究部門)研究費獲得に向けた戦略や工夫等・北海道大学 吉田靖弘先生

特別講演2(症例部門)失敗から学ぶ・窪木拓男先生(岡山大学)，大久保力廣先生(鶴見大学)，二川浩樹(広島大学)

特別講演3(衛生士/技工士部門)時間栄養学・加藤秀夫先生

- (6) 口演発表：8題

- (7) グループ討論・発表：ワールドカフェ方式，9班(各5名程度)

- (8) 参加者：理事8名，参加者62名(歯科医師50名，歯科衛生士7名，歯科技工士5名)，特命委員6名

- 2) 次期PMNG2025(Prosthodontic Meeting for Next Generation 2025)企画準備

- (1) 開催場所：関西近郊(検討中)

- (2) 日時：2025年3月(案)

- 3) 登録歯科衛生士制度について

PMNG2024 グループ討論から検討課題を抽出し，歯科衛生士が補綴学会へ参加しやすい環境の整備を模索

XX. 倫理審査委員会

1. 委員会構成

委員長：疋田一洋

副委員長：大久保力廣

委員：岩城麻衣子，篠原光代，真野 博，
正岡直樹

幹 事：前島怜依菜

2. 活動状況

令和5年4月～令和6年5月 研究倫理審査依頼件数 3件

- 1) 令和5年10月6日，16日，23日に3件の研究倫理審査依頼

- 2) 令和5年10月16日～11月29日 メール会議3件の研究倫理審査について

- ① 企業との共同研究を理由に，所属大学の倫理審査委員会では審査できず，本会倫理審査委員会へ審査申請(10/6)，委員会でメール審議の際に審査対象として適切か理事会へはかるべきとの意見があり，総務へ連絡(11/9)，総務から本会倫理審査委員会規程にしたがうと審査対象にならないとの回答があり，申請者に通知した(11/10)。その後，企業との共同研究を行うにあたり，大学分は学内で倫理審査するので，企業分は本会倫理審査委員会で分けて審査可能かを打診された。それに対して，以下の点について正副理事長・総務に上程して検討した。

- ・本来は一つの研究を，別々の倫理審査委員会で審

査することは適切なのか。

- ・当該企業が本学会倫理審査委員会規定に定める「倫理審査委員会をもたない医療施設および研究機関」に該当するのか。
- ・当該企業が本学会倫理審査委員会規則に定める「申請者」に該当するのか。

その結果、本会倫理審査対象とはならないと判断し、民間の倫理審査会社を利用する方法を推奨すると通知した。

- ② 申請者は大学を定年退職後、大学外の臨床内容を対象としているため、実質的には開業医からの倫理審査依頼と該当する。委員会でメール審議の結果4点追加修正が求められたため申請者に連絡し(11/9)、申請者から修正案が提出され(11/10)、ただちに委員会内で再検討し適切と判断され、令和5年11月13日付けで承認と判定した。(承認番号 2023-001)
- ③ 本学会歴代理事長が研究代表者を努めてきた厚生労働科研の一環であり、窪木理事長から総務を通して倫理審査依頼(10/23)、委員会でメール審議の結果、1点追加修正が求められたため申請者に連絡し(11/9)、申請者から修正案が提出され(11/10)、ただちに委員会内で再検討し適切に修正されたと判断し、令和5年11月13日付けで承認と判定した。(承認番号 2023-002)

XXI. 利益相反委員会

1. 委員会構成

委員長：岡本和彦

副委員長：二川浩樹

委員：小川 匠，真野 博

幹事：鳴海史子

2. 活動報告

- 1) 令和5年12月27日～令和6年1月9日 メール会議

令和5年12月27日付けで日本歯科医学会連合からICT活用委員会アンケートフォームで「AIに関するアンケート」依頼があり、本学会におけるAI使用に関するガイドライン、基本方針、指針等の作成状況および、治療、診断、患者啓発等の企画に関する状況について、理事長、学術委員会およびメール会議で検討した。それに対して、現況としてガイドライン、基本方針、指針等について今後、作成予定であること、治療、診断などの企画項目については、特許が絡むところがあるため具体的な内容については差し控える旨回答した。